

県営大高緑地への「ディノアドベンチャーライド名古屋（恐竜パーク）」の  
誘致の中止を求める請願書

紹介議員 わしの 恵子  
下奥 奈歩

内容

県営大高緑地への「ディノアドベンチャーライド名古屋」の誘致の中止を求めます。

理由

愛知県は平成27年10月15日、県営大高緑地に「ディノアドベンチャーライド名古屋（恐竜パーク）」を誘致すると発表しました。

大高緑地は多種多様な動植物が存在し、渡り鳥の中継地点でもあり、環境省や愛知県のレッドリストで絶滅危惧種に指定された生き物も生息する、全国的にも貴重な都市公園です。しかも、予定地からわずか100mのところには国内希少野生動物種（種の保存法）に指定されている猛禽類のオオタカが毎年営巣・繁殖しています。その中に環境影響調査も行わず、大きな威嚇音を発する人工物（恐竜30体）を設置するという計画は2005年の愛地球博、2010年のCOP10で世界に呼び掛けた「自然との共生」「生物の多様性保全」の精神から明らかに外れるものです。恐竜ブームに乗っただけではないか、という、計画の安易さへ批判の声も多く聞かれ、自然の営みを子どもたちに伝える教育的な配慮など全く感じられないものです。

また施設設置管理者選定委員会で安定的・継続的な経営が不安材料として出されたように、固定的な遊具が果たして何年も来場者の興味を引き続けられるものでありうるかについても懸念するものです。現に公園利用者、地域住民の中には“失敗した後の原状復帰は困難。廃墟になったあかつきの子どもたちの事故が心配”の声が多く聞かれます。

周辺住民においては、交通渋滞、駐車場の不足による路上駐車増加、景観・騒音などに対する大きな不安の声もあります。

私たち「大高緑地を愛する会」は2月28日までに恐竜パーク計画の「見直しを求める要請署名」を16411筆集め、知事あてに提出しました。

愛知県の自然保護の精神を尊重し活かすなら、環境保全への不安や疑問の解消のないまま、また地域住民への説明もないまま 今回の誘致計画を強行するのではなく、地域住民・利用者・大高緑地での活動諸団体等の意見を基に長期的な視野で都市公園としてのあり方を考えるためにも、中止することを求めます。

平成28年 2月29日

愛知県議会議長殿

団体名 大高緑地を愛する会  
住所 名古屋市緑区大高町伊賀殿12-1  
鳴海サンハイツ711号  
代表者 溝口 江理子

